

[野村]

そうです

[工藤]

役場総務課の工藤と申します

[野村]

どうもです。

[工藤]

はい、おはようございます。

[野村]

おはようございます。

[工藤]

お時間よろしいでしょうか？

[野村]

大丈夫です。はい。

[工藤]

先週ですね、お電話をいただきました、ホームページリニューアルの関係のですね、第1回目から4回目のですね、議事録を見せていただきたいというような、お電話をいただいたと思うんですよね。

[野村]

既に出してある情報開示の中でね、それも意図してたんで、併せて出して欲しいということですよ。

[工藤]

それですね、上司も含めて、内部で協議をしたんですけれども、今回のですね、1回目に、開示請求をいただいた中にはですね、その部分のですね、開示という

ものがありませんでしたので、それを見せるということにはですね、ちょっとできませんので。

[野村]

これね、工藤さん、前回の電話で、あなたが、答えようとしてることに對して、そういう事務的な答え方をしないように、あらかじめ、僕は釘を刺してたつもりで。あなたが今言ってる内容っていうのはね、お役所仕事、事務仕事、厳格に言えば、書いてないから、該当しないという、お役所的なやり方をするのは、もちろん可能なんです。可能なんです。それは、また出し直せばいいだけの話で、出し直せばいいだけの話で、ただ単に、お互いに事務の無駄が生じるだけで。実際それだけの話で、あなた方は、もう少しねなんだ、お役所仕事じゃなくて、確かに僕の方に寄り添えば、そういうふうにとれなくもない。だから、それで処理しましょう、というやり方を執ることが、十分可能なわけですよ。その上で、あなたに回答を求めて、あなた1人1人で決めたわけじゃなくて、みんなで、自分だけじゃなくて、「担当者と話をして決めた」というふうに今おっしゃいましたよね。担当の上司と誰ですか？誰ですか？それは。

[工藤]

前にも申し上げました、あの企画防災対策室っていうですね、室の中に係もありますので、先日も対応いたしました坂口とですね、今野とですね。

[野村]

小林さん、関係ないんですか？町長、関係ないんですか？

[工藤]

小林は、関係ないです。

[野村]

町長も関係ないんですか？

[工藤]

町長の方には、この報告をあげてます。

[野村]

町長も駄目だと言ったから、駄目になったんでしょ？

[工藤]

いや、そういうわけではありません。

[野村]

一番、影響力ある人ですよ。町長がもし、「そのぐらい、進めろ」といえば、進む話なんです。当然町長もね。反対したから、出さないって話になってるはずですよ。賛成したんですか？町長

[工藤]

やはり出せないと思います

[野村]

僕は、あなたの感想なんか聞いてないんです。事実を聞いてるんです。

[工藤]

これについては、出せません。

[野村]

違う。あなたの意見なんか聞いてないんです、僕は。町長が、賛成したんです、反対したんですか？ってことを聞いてるんです。

[工藤]

私達は上司と協議をしました。

[野村]

違う、違うよ。あなたも本当に下手だね。答えが、下手だね。「答えられません」でいいんだよ、そういうときは。それをなんか余計なことで頑張ろうとするから、

おかしくなるんだよ。「答えられません」でいいんだよ。「合議で決めたものだから、詳細についてはお答えできません」って言えばいいんだよ。それを変な答え方を、変に隠そうとするから、相手だって、イラつくんだよ。「分かりました。出します」と、それだけの話だから。メールでも送りますから。結局、何回行われたんですか。

[工藤]

はい。今なんておっしゃいました？

[野村]

あのね、聞かなくていい。この前、電話で言ってる通り。公募、Webサイトの公募の開始。もちろん条件を詰めるところからね、契約にいた契約から今現在に至るまでの、全ての書類という書き方します。

[野村]

当然。あなた方、7月のね、8月当初から7月の末にね、(webサイトを)オープンにして、8月末までに何か様子見の期間になってたはずなんでね、当然、今も、そのやり取りをしてるはずなんですよ。会社と。その中で、どういうやり取りをしたのか、資料、もちろん僕は資料を求めますよ。求めますよ。求めた上で、それをどのように変更されて、どのように金額に反映されて、上乘せされたのか、減ったのか、当日当初のままなのか、当初のままだったら、その仕様書に何が書かれて、それがどのように織り込まれてるのか、ちゃんとチェックしますよ、当たり前のことですから。その文書の中には、公募開始から、現在至るまで、前の、全ての文書という書き方をしますからね。

[野村]

全ての文書、それでいいですか？その中で全部出してもらって、その中で僕が見せてもらって、必要のところだけを写しをもらう、って形をとりますんで、それでよ

ろしいです？

[工藤]

野村さんがその開示の請求をですね、またするのであれば、していただきたいと思っています。

[野村]

僕、そんなこと聞いてない。僕、聞いているのは、あなたが前回、僕は正確に書かなかったから、「いや、これは書いてないから出さない」という、方便で、あなた、突っぱねているわけですよ。「これ含まれるべきじゃないんですか？」ということ、じゃあ、そうさせないために、何から何までの全ての文章と分けたりしますよね。そうしちゃうとねあなた方も困るからね。僕だってある程度具体的に書いてるわけですよ。それをね、具体的に書くことによってね、当然、僕はリスクを背負うわけですよ。「これは書いてないから」「これは書いてないから出せない」ということを、言われちゃうから、あんまり具体的にするのは、僕にとってね、情報開示請求者にとっては、不利益があるんですよ。でも、それはあなた方が困らないために、良かれと思って、ある程度絞って出すものなんですよ。それはあなたが、盾にして、「書いてないから出さない」と言うのであれば、僕だって、あなた方に配慮することは止めて、全ての文章にしますよ。それでいいですね。

[工藤]

私の申し上げたことは

[野村]

違う。ちょっと具体的に聞きますよ。あなたが今、「文書に書いてないから出さない」と言った、1回目から4回目。5回目はもらいました。1回目から4回目、ただ僕は、そこに至るまでの、至るまでにどういう経緯があったのかという、文書を求めていることを、請求内容見れば、明らかなことであって、それをあなた方が、

「明確に書いてないから出さない」という言い方をするのであれば、全ての文書で出しますよと。当然、僕は今聞いているのは、議事録。それを出してもらえると理解してよろしいですか？全ての議事録が該当になると。

[工藤]

議事録ではなくて、概要っていうことなりますね。

[野村]

違いますよ。あのね、僕が手元にもらってるのは・・・、なに言っているかさっぱりわかんねえよ。実際に、僕は、委員会の、第4回目の議事録をもらってるでしょう。5回目かな。第5回があるんだったら、第1回から第4回目があるでしょう？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

そこで僕が議事録と議事録をね第1回目委員会の議事録と書いてしまったらねあなた方はねそういう存在ってね、一蹴しちゃうんですよ、あなたがそんなやり方をするんだったら。だからね、全ての文書という書き方をしますけど、当然、タイトルは問わずに1回目から4回までは少なくともあるはず。それは出ますよね？該当になりますよ？そのそれだけの確認です。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

違う。そんなことは聞いてない。僕は該当になるか、ならないか、あなたはね、前回のね、請求では「該当にならない」と言ってるから、書き方を変えて、全ての文書という書き方をしたら、該当になりますよね？という確認をしてるんです。該当になりますよね。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

そんなこと言ったらね。じゃあね、聞きますよ。明確にした方がいいんだったら。じゃあ、その打ち合わせ、ごめんなさいちょっと今、僕は、第4回の、第5回の・・・ちょっと、本当に典型的なお役所仕事だよ。自分で分かってないんだよ、僕が何でこういうこと言ってるか。ここに第5回の、委員会の人が集まって行った議事録が、ここにありますよ。この委員会の、委員が集まって打ち合わせというのは、全部で何回内行われたんですか？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

それと、それから、あなたが言ってる通り、「委員会じゃない」と。「第1回、第2回は、違うタイトルだ」と言うのであれば、そのタイトルを教えてくださいよ。僕は、そうしないと、できないよ、あなたが言う通りに。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

選定委員会でいいわけですね。業務上。選定委員会、第何回まで行われたんですか？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

9回行われたんですか。でも、今まだ行われてるんじゃないですか？まだ。オープ

ンした後で、「やっぱりここは、こうした方がいい」とか、そういう手直しの、期間もあると思うんですよ。その期間に今なってないです？もう手放して、あれじゃないでしょ。

[工藤]

(無言)

[野村]

質問してるんです。工藤さん聞いてます？僕は質問してるんですよ。

[工藤]

(無言)

[野村]

あなたが正確にかけて言うんだったらね、僕は正確に書くための情報が必要なんですよ。それをあなたに求めているんですよ。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

実際にオープンになった後に、普通だったら、こんだけ多分役場の窓口に来る人以上に、多くの人に対しての、広報機能を持つものなんで、それなりの、見直し、検証、が行われてるはずなんですけど、それは別の、打ち合わせが行われてるんですか？選定、選定委員会ってのはあくまでも選定するためだとして、見直しについては、ウェブサイトのリニューアルについては、選定した後実際に、納品物が上がってきて、それを確認した上で、見直し、検証・訂正・補充、そういったものを検討するものなんです。そういうものだと思うんです。それは、誰が担当してるんですか？あなたじゃないでしょう。

[工藤]



(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

あなたが担当なんですか。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

違います。僕が聞いているのは、実際、Web サイトがオープンになって、いろいろ、不具合だとか、足りない部分だとか、見積もり内容に沿ってるかどうか、とかの、チェックが、行われてしかるべきで、「それを誰がやってるんですか？」ってことを聞いているんです。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

これは選定委員会がやるんですか？でしたら。第9回目はいつ終わったんですか？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

でもね。7月といたら、まだオープンになってないですよ。まだ、作り込みが終わってない段階ですよ。最終型になってない段階ですよ、最終型が。終わった最終型が固まって、オープンにして、その後、評価を聞いたりだとか、実際に思ったのと違うとか。町民から、まさに僕が言ってるみたいに、こういう意見があったから直さなきゃとか、いうことを、当然、見直しをしないといけないんですよ、普通は。それは誰の担当なんですか？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

何係？あのね、ちょっと、僕は、貴方が窓口立ってるけど、到底あなたに、その知識があるように思えないから、個別の担当者を聞いてるんです。それをあなたがやってるんですか？。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

あのね、選定委員会というのは、みんな、実際、自分の持ち場があって、僕の知る限り、何らかの、協議すべき内容に対して、エクストラで、やらされる仕事であって、当然、良かれと思って、事前に調べる人もいるでしょうけども、基本的には、その委員会を、開かれる委員会に対して、あらかじめ「委員会あります」と、「内容はこういう内容です」という通知があって、それに出ることが最大の仕事ですよ。委員会ってそうじゃないですか？つまり、僕が言ってるのは、委員会になったからといってねその中でね、何々の窓口担当とか、そういう特別な、仕事を、与えられなければ、通常業務、本来の自分の仕事に、従事するのが当たり前であって、委員会が招集されなければね何もしないのが、一般的な委員会じゃないですか？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

そんなこと、僕が言ってる質問は、改めて、初めて言ってる質問なんですよ。もうお話にならないあなたは。お話にならないよ。何やってるんですか。ちょっと本当に、僕は、これ、もう町民として恥ずかしいよ。これちょっと、あの今野さんにもう1回、これもう1回・・・どんだけ手間をかけさせればいいんですか。ちょっと、

今野さんが変わってください。お話にならないよ。

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

じゃあ、折り返し電話ください。戻り次第、今野さんから。お願いしますよ。伝えてもらえますね？なんで僕が、「あなたとじゃお話しにやらない」と言ってるのか。ちゃんと伝えてね、今野さんから連絡もらえますね。よろしいですか。伝えてもらえますね？

[工藤]

(音声レベル低下により聞き取り不能)

[野村]

お願いします。はい。お手間かけます。はい。

以上